

国語科 学習指導案

1 国語科学習指導案について

1-1 国語科学習指導案

国語の学習指導案(以下「指導案」)の書き方に、「このように書きなさい」という唯一の書き方があるわけではありません。書き方は様々にあります。ここでは、様々な指導案の書き方にも対応できるであろう、基本的な書き方を示しました。

なぜ、指導案を書く必要があるのでしょうか。それは次のようなことが考えられるからです。授業前、私たちの頭の中には授業についての漠然としたイメージがあります。指導案を書くことは、言語の力を借りて、そのイメージを明確で整理されたものにつな갑니다。指導案を書く過程で漠然としたイメージは明確な構想となり、さらに、書いたものを推敲することでより整理された構想になるでしょう。その往還が授業準備になります。また、授業後に指導案をもとに授業を振り返ることで、課題と成果が明らかになるでしょう。つまり、指導案の執筆は、授業について考えることそのものであるといえます。さらに、指導案は他者とも共有可能なものです。授業前・授業後に授業について互いに議論しあうことで、授業はもちろんのこと、自他の授業観・教育観は磨かれていきます。

1-2 国語科学習指導案の執筆

指導案を大きく整理すると、①冒頭部、②単元、③本時の三つの部分に分けられます。

①冒頭部

国語科学習指導案	
広島大学附属福山中・高 実習生A	
1, 日時	202X年Y月Z日
2, 対象	2年X組(男子20名 女子20名)
3, 科目名	国語
4, 教材	安岡章太郎「サーカスの馬」(学校図書『中学 国語2』) (副教材として、吉野弘「奈々子に」(学校図書『中学 国語1』))

冒頭部は授業者、日時、授業クラス、授業場所、科目、使用教材を記します。

②単元

5, 単元名 「サーカスの馬」を読んで、僕について想像する。

6, 単元について

教材観

中学校学習指導要領国語の2年生の読むことでは、「文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えること。」と目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること」が指導事項としてあげられている。

「サーカスの馬」は、現実逃避で投げやりな日常の自分が、自分の可能性を信じるもう一人の自分の存在に気付く話である。『目をそらせながら、「まあいいや、どうだって。」と、つぶやいてみる』僕は、世界からも他者からも自分からも逃げ腰であり、無関心、無気力を装っている。しかし、たまたま目にしたサーカスの馬について想像をめぐらすことが好きになるなど、心の奥深くでは他者に関心を持っているし、関係を持ちたがっていてもいる。一座の花形である馬の活躍に心を奪われた僕は無自覚に馬に拍手し、我に返ると、そのようなもう一人の自分に気付く。ここには、馬＝自分の可能性を信じて応援する無自覚の自分と、そんな自分に気付く自覚的な日常的な自分の出会いが描かれている。

本教材を用いることで、まずは人物の言動と描写を読む力を育みたい。そのうえで、私たちの心は一枚岩なのではないこと。現実から逃避し、無関心、無気力な自覚的な私と、自分の可能性を信じて応援する無自覚の私とが同居しているのではないかと、自分の心をとらえ直させたい。

学習者観

学習者に限らず、だれでも心は複雑である。普段日常の自覚的な私は、無自覚の私の影響を受けながら存在している。自分を一元的な固着したものととらえるのではなく、多元的な柔軟なものにとらえてみる。心の奥の小さなつぶやきに耳を傾ける姿勢を学習者には身につけてもらいたい。

指導観

中学校学習指導要領国語の2年生の読むことでは、「詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする」ことが言語活動例としてあげられている。

本単元では、感じたこと、考えたことの交流を行いながら授業を進める。一方で、学習者の書いたものをもとに、読解のポイントを設定することにする。特に、学習者の見出した、論理のズレ、常識とのズレ、展開の飛躍といった、文章の持つ問題点は立ち止まって皆で読み深めを行いたい。

また、発展学習として「奈々子に」と「サーカスの馬」の共通点について考える活動を行う。ここでは、「奈々子に」を精読するのではなく、音読を繰り返したのち、両教材の共通点を学習者に考えさせ、交流する活動を中心にした。

7. 単元の目標

- ・単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解できる。
(知識・技能)
- ・文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- ・登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)

8. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解している。	①「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。 ②「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。	①積極的に登場人物の言動の意味などについて考え、学習課題に沿って考えたことを語り合おうとしている。

9. 単元の展開

時	主たる学習活動	評価
1	・範読を聞く。 ・初読の感想を書く。 ・級友の感想を読み、裏にコメントを書く。	・主体的に学習に取り組む態度①
2	・場面1と2を読む。 ・僕の人物像をうまく表現している部分を抜き出す。 ・目をそらせながら「まあいいや、どうだって」とつぶやいてみる／つぶやいていたという部分からうかがえる僕の人物像をまとめる。	・思考・判断・表現① ・知識・技能①
3	・場面3を読む。 ・僕と馬の関係をまとめる。	・思考・判断・表現①

	・なぜ僕は馬には関心を持つのか考える。	
4 本 時	・場面4を読む。 ・僕の変化をまとめる。 ・この後、僕にどう変化してほしいか考えて書く。 ・交流する。	・思考・判断・表現① ・思考・判断・表現②
5	・「奈々子に」の範読を聞く。 ・「奈々子に」を音読する。 ・「サーカスの馬」と「奈々子に」の共通点を考えて書く。 ・交流する。	・思考・判断・表現①

私たちはどうしても一時間の授業を基本単位にして国語の授業を考えがちです。しかし、国語の授業について考える基本単位は、一時間の授業ではなくて、単元です。単元という全体があり、その中の部分として一時間の授業が位置づきます。単元という全体(もちろん単元も年間計画の中の部分なのですが)をふまえずに一時間一時間の授業を考えると、全体として脈絡のない単元展開になってしまいます。

単元レベルで指導案を書くことで、授業全体のイメージが明確で整理されたものになります。授業全体のイメージが固まることによって、各時の授業についてイメージを持つことが可能になります。

単元は、学習者の現状、指導者の目指す学習者像(学習指導要領の目標と内容をふまえた学習者像とも言えます)、教材の三者をふまえて構想します。この三者をもとに考えられる、学習者に育みたい力が「単元目標」です。単元はこの目標達成を目ざして展開します。

「単元名」は、構想した単元の中心が何かを示すものです。単元には、教材を中心にしたもの、技能の練習を中心にしたもの、生活に必要な言語活動を中心にしたもの、主題について考えることを中心にしたものなど様々にあります。単元の中心を端的に示す名前を考えましょう。

「教材観」は、単元構想を、学習者に育みたい力と教材の持っている力や価値に重きをおいてまとめたものです。まずは、学習者に育みたい力を学習指導要領(以下「指導要領」)の目標と内容(文部科学省、『中学校学習指導要領解説国語編』, 2018, 東洋館出版。文部科学省、『高等学校学習指導要領解説国語編』, 2019, 教育出版。などを参考に)をふまえてまとめましょう。次に、そのような力を育むことのできる力や価値はこの教材のどの点にあるのかについて、まとめましょう。さらに、その力を育むためには、この教材を用いながら、どのような言語活動を行うかについて考え、まとめましょう。

「学習者観」は、単元構想を、学習者の現状と目指すべき理想像とに重きを置いてまとめたものです。授業は学習者を変容・成長させるために行われます。そのため、学習者の現状をどのようにとらえているのか、単元を通じてどのように変容・成長させたいのかについて考えることが必要です。その際、単元の目標や内容とかわる面を中心にすれば、学習者を捉え易いと思います。

「指導観」は、単元構想を学習指導に重きを置いてまとめたものです。学習者の変容・成長は、指導者の働きかけとそれによる学習者の能動的な学びによって実現します。指導者は授業の中でどのような働きかけを行うのか、学習者の学習活動や学習形態はどのようなものかについて、まとめましょう。

「単元目標」は、単元を通じて学習者に育みたい力です。育みたい力は、指導要領の目標と内容をふまえて設定します。ただし、授業は眼前の学習者に向けて眼前の教材を用いて行うのだから、指導要領をもとにより実情に即して設定することもあり得ます。学習者の現状、教材の持っている力や価値、指導要領の三者をふまえて、学習者に育みたい力を考えましょう。この教材を用いることで、学習者にどのような力を育むことができるのか(べきなのか)、指導要領をふまえつつ想定し、目標を定めるとも言えます。その際、価値目標(何について、どのような考えを持たせるのか)、態度目標(何について、どのような態度をもたせるのか)、技能目標(話す・聞く・書く・読む・見る活動について、どのような技能を持たせるのか)の三つの領域を意識すると、目標はたて易くなります。目標をいくつも立てることは控えましょう。価値・態度目標は多くの場合それぞれ一つです。教材研究をする中で、教材の持つ様々な力に気づき、「あの力もこの力も学習者に育みたい」と思うことでしょう。しかし、「特にこの力を育もう」と思うものに目標はしぼりましょう。価値・態度・技能目標がそれぞれ一つということもありうるわけです。

「単元の評価規準」は、単元目標を具現化した状態についてまとめたものです。評価規準作成にあたっては、国立教育政策研究所作成のものを参考にしてください(国立教育政策研究所教育課程研究センター、『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料中学校国語』、2012、教育出版。国立教育政策研究所教育課程研究センター、『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料高等学校国語』、2012、教育出版。『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』、2020、国立教育政策研究所教育課程研究センターなどを参考に)。評価規準は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」からなっています。単元目標とかかわりの深い評価規準を選びましょう。選んだ評価規準を参考にしつつ、教材や学習者に合わせて単元の評価規準を考えましょう。

「単元の指導と評価の計画」は、単元中の各時の学習指導と評価をまとめたものです。言わば全体(単元)と部分(各時)の関係を示すものと言えます。先にも述べましたが、授業の基本単位は単元です。単元全体を念頭に、各時を位置づけ、まとめる必要があります。指導は各時における学習者の学習内容と活動をまとめたものです。評価は、どのような学習者の状態を目指すのか(評価規準)と、その確認をどのようにするのか(評価方法)についてまとめたものです。評価方法は、観察・点検、確認、分析で行うのが一般的です。

③本時

10. 本時の目標

- ①僕の変化を、僕の言動に注目しながら読む。

②僕の今後を、自分の身にひきつけながら想像し、書く。

1 1、本時の評価規準

①描写の効果や登場人物の言動の意味などを考えて物語の内容を理解し、自分の感想を持っている。

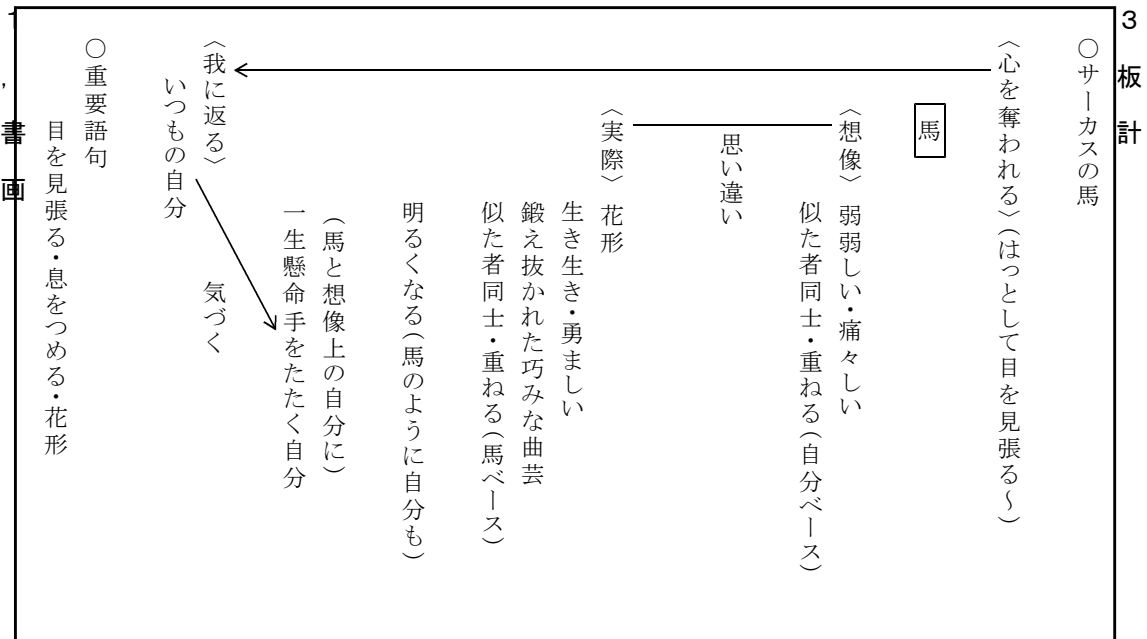
②物語に表れているものの見方や考え方について、自分の知識や経験と関連付けて感想をまとめ、交流して深めている。

1 2、本時の学習指導の展開

時	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 ~5	・前時の想起と本時の内容の確認。	・前時は、僕と馬の関係と、何故僕は馬にだけは関心を向けるのかについて考えたことの確認。 ・本時は、50 ページ 9 行目から最後まで読み、僕の変化について考えることを確認する。	
展開 5~10	・音読する。	・50 ページ 9 行目から、段落で交代しながら音読する。	
10~15	・僕が何に心を奪われたのかについて理解する。	・いつもの僕が大きく変化していることを確認する。 ・「我に返る」が、何事かに心を奪われた自分が、いつもの自分に戻るという意味であることを確認する。	
		「僕がなぜ変化し、どのように変化したのかを読みとろう。」	
		・「一生懸命手をたたく」が、何かを応援する、ほめているということを確認する。 ・「僕は何に心を奪われたのか」、「どこから心を奪われているのか」を問う。 ・「はっとして目を見張った」以後、馬に	

<p>15~25</p>	<p>・想像していた馬と、実際の馬との違いを理解する。</p>	<p>心を奪われていることを押さえる。</p> <p>・「目を見張る」が感動して驚くという意味であることを確認する。</p> <p>・「この場面で、馬はどんな様子で、どんなことをしているのか」を問い、ノートにまとめさせる。</p> <p>・ノートにまとめさせたものを発表させる。発表内容を受け、黒板で整理する。馬は実際にはサーカスの花形であり、弱弱しく「まあいいやどうだって」とつぶやく馬が間違った想像であることを押さえる。</p>	
<p>25~35</p>	<p>・明るい気持ちになったのは何故かについて考える。</p>	<p>・初読ででた疑問をふまえながら、「自分と似た者同士だと思っていた馬が、実際には花形であったことを、置いていかれた気にならず、明るい気持ちになったのは何故か」を問い、ノートにまとめさせる。</p> <div data-bbox="746 1301 1155 1473" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">つまずきへの対応</p> <p style="text-align: center;">「この場面で、僕は馬との関係をどのように考えているだろうか」</p> </div> <p>・ノートにまとめさせたものを発表させる。想像と違って馬が活躍しているからだけではなく、活躍する馬に自分を重ねて、活躍する自分を想像しているから明るい気持ちになっているということを押さえる。</p> <p>・「一生懸命手をたたく」対象が、活躍する馬だけでなく、想像上の活躍する自分でもあることを確認する。</p> <p>・現実逃避・投げやり・無関心を装って</p>	<p>(記述の点検)</p>

35~45	・この後、僕にどのように変化してほしいか考える。	いるいつもの僕と、活躍する自分を想像してそれを一生懸命応援する僕の二人の僕がいることを確認する。 ・僕にこの話のあとどう変化してほしいか、自分の考えをワークシートに書く。 ・交流し合う。	(ワークシートの確認)
終結	・本時のまとめと次時の内容の確認。	・次時は、「奈々子に」という詩とサーカスの馬とを読むことを確認する。	



授業の代表的な構成要素として、学習者(個としても、集団としても)・教材・ノート・黒板・指導者があげられます。学習者の学習活動とは、学習者がその他の要素に向けて話す・聞く・書く・読む・見る・考えるといった働きかけを行うことです。指導者の指導とは、学習者に説明、指示、発問、支援といった働きかけを行い、学習者とその他の構成要素とを関係づけることです。

本時レベルで指導案を書くことで、学習者はどのような活動を行うのか、指導者は学習者にどのような働きかけを行うのか、が明確で整理されたものになり、実際の授業に臨む最終準備が整います。

「本時の目標」は、本時の学習を通じて、学習者に育みたい力についてまとめたものです。本時は単元とい

う全体の中に位置づくのだから、単元目標をふまえることが必要です。もちろん、単元目標をもとに、本時の学習内容をもふまえて、より詳細な目標を掲げることもあります。

「本時の評価規準」は、本時の目標を具現化した状態についてまとめたものです。本時の目標と同様に、単元の評価規準をもとに、本時の学習内容をもふまえて、より詳細な評価規準を掲げることもあります。

「本時の学習指導の展開」は「学習活動」「指導上の留意点」「評価規準と評価方法」に分けられます。「学習活動」は学習者の活動について記したものです。個々の学習活動が、本時の学習活動全体のなかで適切に位置づいているか、つまり全体として脈絡を持っているかどうか留意しながら構想しましょう。また、学習者が、何(教材・ノート・黒板・級友・指導者など)について、どのような学習活動(話す・聞く・書く・読む・見る・考えるなど)をするのか、具体的に考えましょう。「指導上の留意点」は、学習者が学習活動をするにあたり、教師がどのように働きかけるかについてまとめたものです。説明・指示・発問・支援といった働きかけを、具体的にまとめます。教師からの働きかけだけでなく、学習者の反応も予想することができれば、授業のイメージはぐっと具体的なものになります。特に、つまづいている学習者にどのような支援・指導をおこなうのかについては、予想しておくことが大切です。支援の方法を四角で囲むなどして指導案上に強調して記すことが多く行われています。また、本時の課題を確認する活動を指導案上に強調して記すことも多く行われています。本時に何をやるのかあいまいなまま授業を進めるのではなく、学習者と指導者とで確認することを行い、明確にして授業を進める必要があるからです。

「板書計画」は、授業で描く板書の完成図を示したものです。黒板は指導者と学習者全員によって共有されるものです。ですから、全員で共有すべき事柄は何かについて考えましょう。作業手順を書く場合、教材の構造を書く場合、学習者の意見を書く場合など、様々にあります。また、それをどのような順序で板書していくのかについても計画をたてましょう。

1-3 授業後の国語科学習指導案

実際の授業を終えた後、自分なりの振り返りと指導教員からの意見や他の実習生からの意見を指導案に書き留めてください。それを手掛かりにして、指導案上の授業(理想的な授業)と実際の授業のずれはどこにあったのかについて考えることが、成果と課題を明らかにすることにつながります。そして、この指導案を保存・蓄積し、時に振り返ることが、より厚みのある授業を創りだすことにつながります。

2 国語科学習指導案の具体例

国語科学習指導案

広島大学附属福山中・高 実習生 A

- 1, 日時 202X年Y月Z日
- 2, 対象と場所 4年X組(男子20名 女子20名) 4年X組教室
- 3, 科目名 言語文化
- 4, 教材 『徒然草』(筑摩書房 『言語文化』)
- 5, 単元名 兼好法師の時代への批判を読む
- 6, 単元について

教材観

高等学校学習指導要領の言語文化の読むことでは、「作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること」と「作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと」が指導事項としてあげられている。

「ある人、弓射ることを習ふに」「花は盛りに」「丹波に出雲といふ所あり」段には、兼好の時代・社会に対する批判意識があらわれている。「ある人、弓射ることを習ふに」は、二本の矢を持って的に向かうという常識に対して、そこに無意識のうちに潜んでしまう怠け心を指摘し、忠告する弓の達人の話が高く価値づける話である。「花は盛りに」は、月や花といった対象を、盛りの時だけ、距離をとることもなく、目で見て賞美する多くの人々の姿勢を批判し、初めと終わりの時にも、距離をとっても、心の中でも対象を鑑賞することができることを主張する話である。「丹波に出雲といふ所あり」は、ありがたい神社の狛犬はありがたいに違いないと当然視する上人を低く価値づける話である。いずれの話にも、ありがちな振舞やあたりまえの考えを対象化し、考えることを高く評価する／考えようとする兼好法師の姿勢を見ることができる。

本単元では、三つの文章を重ね読みし、時代や社会であたりまえとされることを対象化し、批判的に考える兼好法師の姿勢を読みとらせたい。さらに、そのような兼好の姿勢に対して学習者自身はどのように感じ・考えるのか考え深めさせたい。

学習者観

日々の生活で、私たちはあたりまえのことにいちいち立ち止まって眼を向けることは少ない。しかし、あたりまえのことを当然視しすぎると、世界は硬直化し、やがて人を抑圧するものになってしまう。必要となるのは、一見あたりまえだと思っているものを、別の立場から考え直すことであろう。

あたりまえのことに従うことで無意識のうちに心の中に生じてしまう怠け心、あたりまえのことに縛られて対象の味わい方を狭くしてしまうこと、社会的に権威あるものを理由もないのに信じ込んでしまうことは、今の学習者にもあることだろう。しかし、そのあたりまえで世界を狭くし、自分を縛ってしまうのではなく、あたりまえを対象化

し、別の立場から考え直す姿勢を身につけてほしい。

指導観

高等学校学習指導要領の言語文化の読むことでは、「作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動」が言語活動例としてあげられている。

本単元では、三つの段を重ね読みし、そこから想像される書き手の姿勢について感想文・批評文を書く活動を行う。感想文・批評文を書く活動を行うにあたっては、感想文や批評文の書き方そのものの指導はここでは行わない。批評に当たっては、自分の経験と関連付けて価値づけ・評価づけさせるようにする。

三つの段とも、だいたいの内容を理解することは難しくはない。そのため、大まかな内容理解は、音読を通じて学習者自身の力で可能である。むしろ、三つの段では単語や文法に注目することが、読み深めの契機になる。そのため、辞書で調べる活動をとりいれながら、授業を進めたい。

7. 単元の目標

- ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解することができる。(知識・技能)
- ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。(思考力、判断力、表現力等)
- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)

8. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文章の意味を文脈の中で形成されることを理解している。	①作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ②作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。	①積極的に登場人物の言動の意味などについて考え、学習課題に沿って考えたことを語り合おうとしている。

9. 単元の指導と評価の計画 (全6時間 本時は4時間目)

次	具体的な評価規準と評価方法	学習活動
1	(評価規準)	○「ある人、弓射ることを習ふに」段を読む。

<p>・人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付いている。</p> <p>・文章に表れている書き手の思考の流れに目を向け、なぜこの文章を書いたのか、なぜこのように書いたのかなどに迫っている。</p> <p>〈評価方法〉</p> <p>・行動の観察・記述の点検</p>	<p>・「つれづれなるままに」段を音読する。</p> <p>・『徒然草』や兼好法師について知っていることを発表しあう。</p> <p>・「ある人、弓射ることを習ふに」段を音読する。</p> <p>・万事に通用する戒めとは何かを、脚注や辞書を参考にしながら、読みとる。</p> <p>・二本の矢を持つことが、当時の常識であったことを理解する。</p> <p>・兼好法師が弓の達人の教えをなぜ高く評価しているのかについて考え、発表する。</p>
<p>〈評価規準〉</p> <p>・人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付いている。</p> <p>・文章に表れている書き手の思考の流れに目を向け、なぜこの文章を書いたのか、なぜこのように書いたのかなどに迫っている。</p> <p>・古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身につけている。</p> <p>〈評価方法〉</p> <p>・行動の観察・記述の点検</p>	<p>○「花は盛りに」段を読む。</p> <p>・「花は盛りに」段を音読する。</p> <p>・花や月を鑑賞する態度として兼好法師が高く評価しているものと、低く評価しているものとして脚注や辞書を参考にしながら、読みとる。</p> <p>・反語について理解する。</p> <p>・「かたくななり・よし」を理解する。</p> <p>・かりに自分が月や花を観賞するなら、どちらの態度で鑑賞するかについて想像し、発表する。</p> <p>・兼好法師があたりまえの観賞態度をあえて低く評価し、そうではない態度を高く評価したのはなぜかについて考え、発表する。</p>
<p>〈評価規準〉</p> <p>・人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付いている。</p> <p>・文章に表れている書き手の思考の流れに目を向け、なぜこの文章を書いたのか、なぜこのように書いたのかなどに迫っている。</p> <p>・古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身につけている。</p> <p>〈評価方法〉</p> <p>・行動の観察・記述の点検</p>	<p>○「丹波に出雲といふ所あり」段を読む。</p> <p>・「丹波に出雲といふ所あり」段を音読する。</p> <p>・人物関係を読みとり、発表する。</p> <p>・信仰心をあつくしたのはなぜかについて読みとって、発表する。</p> <p>・「めでたし・ゆゆし」を理解する。</p> <p>・狛犬と獅子に対する上人と一行の心情の違いを読みとって、発表する。</p> <p>・「いみじ・ゆゑ・ゆかしがる・むげなり」を理解する。</p> <p>・上人がなぜそのような心情になったのかについて、考えて、発表する。</p>

		・兼好法師が上人の感涙を低く評価したのはなぜかについて考え、発表する。
2	<p>〈評価規準〉</p> <p>・文章に表れている書き手の思考の流れに目を向け、なぜこの文章を書いたのか、なぜこのように書いたのかなどに迫ろうとしている。</p> <p>〈評価方法〉</p> <p>・行動の観察・ワークシートの確認</p>	<p>○感想文・批評文を書く</p> <p>・三つの段は、兼好法師の時代・社会に対する批判意識があらわれていることを理解する。</p> <p>・感想文・批評文を書く。</p> <p>・級友と読みあいをし、級友の文章へのコメントを書く。</p>

10. 本時の目標

- ①上人の人物像を、表現に注目しながら、理解する。
- ②古文単語と文法について理解する。

11. 本時の評価規準

- ①人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付いている。
- ②古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身につけている。

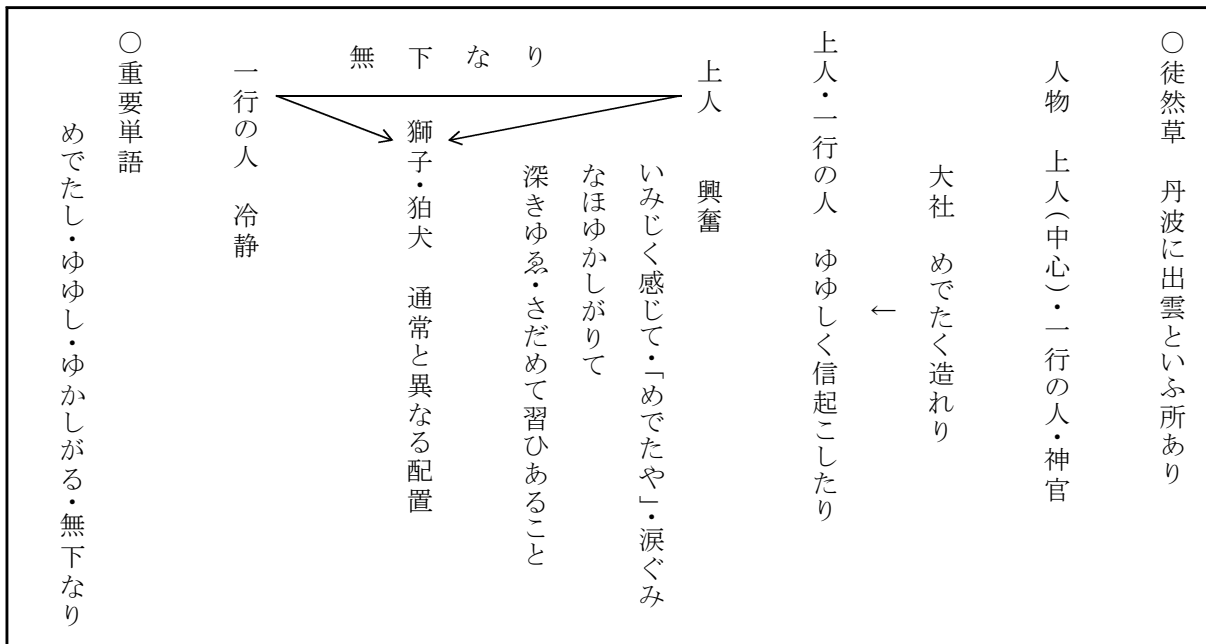
12. 本時の学習指導の展開

時	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 ~5	・前時までの想起と本時の内容の確認。	<p>・「ある人、弓射ることを習ふに」段と「花は盛りに」段を読み、兼好法師の意図について考えたことを確認する。</p> <p>・本時は「丹波に出雲といふ所あり」段を読み、登場人物について読み深めることを確認する。</p>	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>今日は、登場人物の言動に注目して、人物像を捉えよう。</p> </div>			
展開 1 5~10	・音読する。	・「始～信起こしたり」と「御前～言ふに」と「上人～ければ」に分けて、指名音読させる。最後の一節は指導者が音読する。	
展開 2	・登場人物を整理する。	・登場人物はだれか、整理するように指示する。整理の後、発表させる。上人・一行の人・神官。	(行動の観察)

10~20	<ul style="list-style-type: none"> ・上人の言動を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中心人物である上人の言動に線を引くように指示する。作業の後、発表させる。「いざ、たまへ〜」・ゆゆしく信起こしたり・いみじく感じて・「あなめでたや〜」・「いかに殿ばら〜」・なほゆかしがりて・「この御社の〜」 	
<p>展開</p> <p>3</p> <p>20~45</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上人の言動を読みとり、人物像をまとめる。 <p>(1) ゆゆしく信起こしたり</p> <p>(2) いみじく感じて・なほゆかしがりて</p> <p>(3) 深きゆゑ・さだめて習ひあること</p> <p>(4) 上人の人物像をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上人が単に「信起こしたり」ではなく、「ゆゆしく信起こしたり」なのはなぜか、発問をする。荘厳な神社の構えが上人の信仰心を高ぶらせていることを押さえさせる。 ・「めでたし」と「ゆゆし」を辞書で調べさせる。 <div data-bbox="628 848 1141 1019" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">つまずきへの対応</p> <p>大社がどのような雰囲気だったのだろうか読みとらせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・狛犬と獅子の配置について、上人の言動と一行の人の言動を比べ、違いがどこにあるのか発問をする。興奮する上人と、冷静な一行の人の違いを押さえさせる。 ・「むげなり」を辞書で調べさせる。 <div data-bbox="628 1301 1141 1471" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">つまずきへの対応</p> <p>上人の一行の人への発言内容を読みとらせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「深きゆゑ」「さだめて習ひあること」が根拠あることではなく、上人の興奮ゆえの思い込みであることを確認する。 ・上人はどのような人物とまとめられるか、ノートに記述するように指示する。端的にまとめさせる。思い込みが激しい・興奮して周囲が見えなくなっている・一人で興奮してとまらなくなっているなど。 	<p>(行動の観察)</p> <p>(行動の観察)</p> <p>(記述の点検)</p>
<p>終結</p> <p>45~50</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめと次時の内容の確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時は上人の言動を中心に読んだことを確認する。 ・次時は上人の言動を読むことと、兼好法師の意図 	

について考えることを確認する。

13. 板書計画



3 発展

本校の国語科は教育実習に関する研究を行ってきました。その中では、①単元の構想、②授業の準備、③授業の実際の着眼点・要素として次のものをあげています。

①単元の構想

1単元の趣旨 2単元の流れ 3学習者観 4教材観 5教材分析
6評価, 学習指導要領との関連

②授業の準備

1教材, 資料作成 2本時の目標 3授業の流れ 4発問の設定 5板書計画
6学習活動の工夫 7指導案の作成

③授業の実際

1学習者の反応およびそれへの対応 2話し方, ふるまい方

本稿は指導案の作成を中心に述べたので、これらの要素すべてについて言及することはしていません。本稿で述べたことと合わせ、これらの要素とこれらの要素の関係(結びつき)という点から、指導案や実際の授業について考えてください。